

2024年1月1日（月）元旦礼拝メッセージアウトライン 「人に捨てられた要石」

聖書箇所：エペソ2：11～22

タイトル：「人に捨てられた要石」

はじめに：新しい年を迎えました。昨年も様々なことがありましたが、主の御手に守られて過ごさせていただきました。今年も主のみこころを求めつつお従いして、主に在って私たちの歩みが豊かな実を結ぶ一年となるよう願ってやみません。

年の初めにあって、「人に捨てられた要石」というテーマでお話をさせていただきます。「要石」ということばも普段使われる言葉ではありませんが、聖書はイエス・キリストこそ「真の要石」とであると語っています。

要石とは何か？ イエス様がなぜ要石と呼ばれるのか？ その役割は何か？
なぜ、人に捨てられた要石なのか？ 「要石」の意味を理解した私たちはどのように新たな一年を歩んだらよいのかをしっかりと心に留め歩み始めましょう！

1. 「要石」とは何ですか？（礎石とも礎の石とも呼ばれる）

- ①イザヤ28：16、詩篇118：22によると、建物を建てる最初に据えられるコーナーに置かれる石です。この石がなければ建物の土台はできません。
- ②この要石がなければ建物は立て上げられません

2. 要石としてイエス様が成し遂げられたみわざ

- ①二つのものを一つとする働き（エペソ2：11～22）・・・平和の実現

*ユダヤ人と異邦人をつなぐ（2：11～16）

「ですから、思い出してください。あなたがたはかつて、肉においては異邦人でした。人の手で肉に施された、いわゆる『割礼』を持つ人々からは、無割礼の者と呼ばれ、そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の計画については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。」

*神と人をつなぐ（2：18～19）——百パーセント神であり、同時に百パーセント人であられるイエス・キリストのみが出来るみわざです。

「このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、

聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。」

当時、ユダヤ人は自らを「聖徒」と自負していました。実際に、エルサレム神殿には異邦人の庭と呼ばれる庭があり、異邦人はそこから先には入れませんでした。そこには高い隔ての壁が実際に存在していたのです。

- ②キリストを通して神の家族とされた者が築き上げる聖なる宮の土台となられた主
*一つの御霊によって一つとされた者たちが築く神の御住まい、それが教会です。
(2 : 19 ~ 21)

③教会の土台

*教会は神のみ言葉(使徒たちや預言者たちすなわち聖書)という土台の上に建てられています。その土台を造るための要石であられるイエス・キリスト(2 : 20)

3、人に捨てられた要石とは？(1ペテロ2 : 7, 8)

*イザヤ28 : 16 から引用しつつペテロは記しています

「聖書にこう書いてあるからです。『見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼するものは決して失望させられることがない』したがってこの石は、信じているあなたがたには尊いものですが、信じていない人々にとっては、『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった』のであり、それは『つまずきの石、妨げの岩』なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからであり、またそうなるように定められていたのです』

*イエス・キリストはすべての人にとって試金石——イエス・キリストを信じるか否か

4. 結論

新たな一年、私たちはイエス・キリストを要石とし、神の言葉に土台して教会をどのようにして聖なる宮として建て上げることが出来るでしょうか。

①教会は神の家族であり、聖霊の宮であります。各自に聖霊が与えられていることを自覚しながら、御霊は一つであることをしっかりと心に留め、御霊の一致による教会形成を目指しましょう。

②教会は御霊の言葉である聖書に根ざしてその働きを進めます。教会員一人一人が日々聖書を読み、そこから教えられ導かれて主にお従いすると同時に、独善的な解釈や独りよがりな解釈に陥らないために、教会のメンバーと共に学んでいくということも大切です。世界のあらゆるところで聖書が研究されていますが、聖書の基本的な神学も理解しておくことも大切です。そして、聖書全体、旧約聖書と新約聖書の両方を大切に学び、文脈からみ言葉の意味するところを捉え、最終的には、教会の要石となられたイエス様が何を語られどのようにその生涯を送られたのか、それをしっかりと心に留めて適用し、お従いできるように歩んでまいりましょう。